

**販売量 0.9%増の 6,343 千トン 家庭業務用 1.6%増  
化学原料用も 100 万トンを大きく超える  
～2019 年度上期 L P ガス販売概況～**

日本 L P ガス協会が 15 日発表した「2019 年度上期受払月報」によると、L P ガス販売量（元売集計ベース）は前年同期比 0.7%増の 6,343 千トンとなった。この統計でここ 10 年間の上期販売量が最も多かったのは 2012 年度の 7,675 千トン。福島第一・第二原発の原発事故で原発が全面停止となり、東京電力の L P ガス受入量が急増した時だった。2014 年度上期までは 700 万トン前後を維持していたが、2015 年度以降は 628～661 万トンに落ち込んでいた。今期は化学原料用需要が伸びたほか、工業用も増加して前年比プラスとなったもの。いずれもブタンが大幅なプラスとなった。

P・B別に見ると、プロパンが前年同期比 3.4%減の 4,628 千トン、ブタンが同 15.0%増の 1,715 千トンとなっている。プロパン販売量の 66%が家庭業務用だが、ほとんど各月で前年を上回る高気温が続いたものの、4 月が低気温で増需となったほか、9 月には消費税増税前の仮需も発生し、上期プロパン用途別では唯一のプラス（1.6%増）となった。L P ガス GHP の導入が増加したこともプロパン需要を下支えしている。ブタンでは前述の化学原料用が 53.7%増と急増した。ナフサ高・エチレン安がブタン需要を拡大したようだ。石油化学 2 社が積極的に海外からのブタンを受け入れた。工業用は生産回復がブタン消費を増やした。

元売別 L P ガス販売量では、ENEOS グローブが前年同期比 1.6%増の 1,410 千トンと 140 万トン台に乗せた一方で、アストモスエネルギーは同 7.3%減の 1,329 千トンと大きく減少した。ジクシスは 4.3%増の 1,042 千トンと 100 万トンを回復した。

2019 年度上期用途別販売状況は次のとおり。

部門	プロパン		ブタン		合計	
	(t)	(%)	(t)	(%)	(t)	(%)
家庭業務用	3,057,830	101.6	143		3,057,973	101.6
工業用	574,268	97.2	675,879	103.8	1,250,147	100.6
自動車用	22,416	90.3	271,398	89.4	293,814	89.5
都市ガス用	479,675	87.7	87,207	106.5	566,882	90.2
化学原料用	433,783	81.3	659,409	153.7	1,093,192	113.6
電力用	60,381	69.1	20,466	82.3	80,847	72.0
合計	4,628,353	96.6	1,714,502	115.0	6,342,855	100.9

(注) 販売状況の詳細は会員情報として後日掲載しますので、お問い合わせください。